

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 8月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100686		
法人名	医療法人好縁会		
事業所名	グループホームふれあい段原山崎		
所在地	広島市南区段原山崎2丁目3-8 (電話) 082-282-1077		
自己評価作成日	平成30年6月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100686-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年8月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>●生活歴・個別性に目を向け、入居前の生活ができるだけ継続して行え、ご本人・ご家族の願いや想いを形にしていけるよう努めている。</p> <p>●ご利用者の笑顔を大切に、職員一人一人が提案し、日々行動に移している。</p> <p>●個別支援、外出支援はもとより、日々の生活でご利用者様の気持ちに寄り添い、集団生活での窮屈さや苦痛をできるだけ感じることなく生活できるよう、細やかな所にも配慮ができる職員育成を目指している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者に対する個別対応を重視し、利用者の笑顔が見えるよう支援している。利用者毎に「ハッピーライフ・クリエイター」を決め、利用者の生活歴から趣味・好みを掘り下げて利用者の要望・意向を把握し、「ハッピーライフ」を実現するよう取り組んでいる。誕生日にデパートに買い物に行き喫茶店での休憩、近所のカフェに行ったり、花火見物を企画することもある。また、一人暮らしが長く、食べ物の好き嫌が多い利用者には別メニューで対応している。利用者が健康で快適に過ごせるように、トイレ誘導・水分補給には十分配慮している。法人全体として職員を育てる仕組みが充実し、資格取得の支援を行い、働きやすい職場環境づくりに努めている。</p>

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	基本理念及び好縁会生活作り10か条を主軸に、全職員共有し、実践につないでいる。朝礼時は全員で復唱し、一日の目標を立て、サービスを提供している。また、OJTマニュアルを作成し、活用している。	法人理念の下に、毎年、事業計画を作成して事業所の達成度を評価し、また職員は各自の目標を立てて、その達成度を評価している。なお、法人理念を基に職員行動指針として「好縁会生活作り10か条」があり、送り時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し寄り合い、婦人部の清掃等参加している。地域の行事などに参加し、地域の方々との接点を持てるよう心がけている。挨拶への気配りにも注意している。	町内会に加入し、町内清掃に協力している。地域の学区社協と地域が開催する「レンコン祭り」や地域老人会主催の「いきいき百歳体操」に利用者が参加している。近隣の同一法人グループホームが主催する「夏まつり」に利用者が参加し、地域住民と交流している。散歩時に地域住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	玄関先で施設に興味を示している町内の方には、こちらから声をかけさせて頂き、話を伺っている。地域貢献できる機会を逃さないよう、住民の声を真摯に受け止めて反映させていきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、事業所の状況やサービスの実際を伝えている。又、利用者様の日常の様子を写真を見ていただき、参加者との話し合いの機会を設けている。ご意見やご要望は早急に対処・改善に努め、サービスの向上に心がけている。	運営推進会議は、同一法人グループホームと合同で開催し、地域住民・地域包括職員が参加しているが、事業所家族の参加はなく、今後、参加を要請する。会議では「身体拘束委員会」も開催され、身体拘束に該当する行為について説明し、事業所では身体拘束の事例はないことを報告している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センターの方に参加して頂き、情報交換を行っている。又、段原地域連絡会へも参加させて頂き、関係機関との連携を深めている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、情報や意見の交換をしている。また市から案内があった研修には職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営推進会議時に、身体拘束禁止委員会を開催している。現時点で身体拘束の事実はないが、今後も行われぬよう意識の徹底と周知を行っている。	法人内研修として「虐待防止研修」を行っているが、その中で身体拘束についても説明している。職員は「身体拘束をしないケア」をよく理解し、事業所での身体拘束の事例はない。玄関は夜間を除き施錠されておらず、利用者は自由に外に出られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止・虐待防止を含めての事故防止委員会を設置し、定期的に会議を行い、内容は回覧し全職員で周知徹底し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されている入居者様がおられ、随時連絡をとっている。又、後見人様には定期的に御面会を頂けるようお伝えし、アドバイスやご要望に対処している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書に基づいて、入居者様、家族に説明している。変更が生じた場合も、その都度説明している。また、不安や疑問点について伺い、ご理解が頂けるよう説明をしている。迅速に誠意を持って対応できるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様に担当をつけ、要望や意見を表せるよう、個別にゆっくとコミュニケーションをとり、担当以外の職員とも話し合いを重ね、意見や要望を見落とさないようにしている。ご家族の面会時には積極的に声かけを行い、得た情報は記録に残す等し職員間での共有を図っている。また、話しやすい雰囲気作りに努め、意見交換を行い、運営に反映させている。	1か月に1回、家族との面談や電話で、利用者の生活状況を報告し、家族が来所された際には、家族の意見・要望を聞いている。家族からの要望で、フルーツを食事やおやつ時に提供するようになった。また、家族からの意見で、玄関に子供用のスリッパを用意している。	毎月、利用者の生活状況は家族へ報告されている。しかし、家族会もなく運営推進会議に家族が参加していないので、事業所の運営状況・行事・事故などに関しては家族に伝わっていないのである。今後は、事業所の「ふれあい新聞」を送付するなど、事業所の活動を家族へ報告することを期待します。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度各フロアでミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、議事録を回覧し、全職員で共有している。また、参加できない職員については、疑問点や意見をあらかじめ提出してもらい、ミーティングで話し合う仕組みにしている。ミーティング以外でも気づいた事があれば、話し合い、対策・改善している。	月に一度のフロアミーティングで職員の意見を聞いている。職員の意見により、利用者をより手厚く介護する為に、食事準備時間の短縮を法人として検討し、配食サービスを導入することになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員が年度目標（チャレンジシート）を作成し、目標達成に取り組んでいる。又、評価表を用いて、各職員の努力や実績を評価している。必要に応じて管理者は個人面談を行い、進捗状況に合わせた課題を出し、関係各所へ報連相を行い、意欲の向上へと努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に研修委員会があり、内部研修が頻繁に行われている。外部研修に関しても、研修費補助や勤務内研修が認められ、比較的参加しやすい体制が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修にて、他事業所の方と意見交換する機会がもてた。当法人のホームの紹介を兼ね、関係事業所への訪問は行なっている。又、同業者からの見学・問い合わせも受けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に管理者、計画作成担当者、必要に応じて看護師が訪問し、関係作りを開始している。可能な限りご本人様の不安や思いを伺い、少しでも不安を取り除けるよう努めている。担当職員を中心に全職員で関係作りに取り組み、安心感の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安やご要望など十分に話を伺い、誠意を持って受け止め、安心してサービスを受けていただけるよう努めている。ホームでの様子を撮影した写真に手紙を添え、毎月送らせて頂き信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメント表を活用し、まず必要とされるサービスの見極めを行い、本人・ご家族との合意の上、支援へとつないでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な限り共に過ごし、主体性のあるその人らしい時間を大切にして頂けるよう努めている。より深い共にある馴染みの関係を目指し、安全・安心の生活ができるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の体調や様子を細かくお伝えし、ご家族の不安や心配ごとを伺い、ケアの方向性を一緒に考え支援している。ご家族様との関係を再構築する為にもご家族様との外出(外食も含む)や、リビングやお部屋で一緒にお食事ができるなどの支援を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が来所された時には、話しやすい雰囲気を作ったり、会話の橋渡しをしている。又、馴染みのご友人との習慣でも入居後も継続して行って頂いたり、通っていた病院へも、定期的に通ったり途切れないように努めている。	踊りを教えていた頃のお弟子さんが訪問に来られることもあり、知人の訪問が継続することを支援したいと考えている。また知人へ送る年賀状を手助けすることもある。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席は利用者様同士の相性や話しやすさを考えて配置し、食事以外の時間にも孤立を防ぐため、家具の配置など、リビングの環境に配慮している。又、より良い人間関係作りのため、職員がコミュニケーションの間に入り、意思疎通の手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されたご利用者のご家族様が施設に来訪されたり、お手紙を頂いたり、サービスが終了してもこれまでの関係性を保てる環境を作っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当者が中心となって、本人の思いを聞き出せるよう努めている。ご本人が話された内容は記録に残し、全職員が共有できるようにしている。本人のこれまでの生活習慣に近づけるよう、情報収集を行い、馴染みの場所や趣味の場所に足を運べるよう個別外出支援も行っている。	利用者毎に担当者を決め「ハッピーライフ・クリエイター」として、利用者の生活歴・趣味・好みを掘り下げ「利用者のハッピーライフ」を模索し、支援に活用している。利用者の思いを把握したら、「プランターの水やり」「ゴミ捨て」など試験的に実施し、利用者の反応を確認し、ケアプランに取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報提供を基に、基本情報やアセスメントシートを作成・活用し、ほぼ把握できている。縁者の方々等からも、より詳しくうかがったり、生活場面や本人とのコミュニケーションの中からの把握にも努めている。本人の人生史も重視し、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活状況記録を主として毎日の様子を記録し、全職員が把握し、心身の状況の変化があれば、明確に分かるよう連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントを行い、ご本人やご家族と話し合いの上、課題抽出をし、目標を見据えたケアプランを立てている。毎月モニタリングを行い、見直しをしている。ご家族とは来所時に現状や取り組み内容などを伝え、ご意見等を聞きケアの参考にしていく。</p>	<p>利用者毎に担当者を決めて利用者の思い・意向を確認し、月に1回、モニタリングを行う。モニタリングの結果を家族に報告し、家族の意見を聞く。その後、カンファレンスで職員と話し合いケアプランの見直しを行っている。その際に医師や看護師の意見を参考にすることもある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活記録と個別記録を主な記録とし、心身状態の変化・プラン実施状況・生活状況・会話等を詳しく記録に残している。職員は記録を共有し、ケアプラン作成やモニタリングに反映させ活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存サービス外と思われるニーズに対しても可能な限り対応している。個別外出支援をはじめ、入院時の対応など突発的な出来事が発生した場合も柔軟なサービスを展開している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近所の公園などへ散歩に行き、そこで遊んでいる子供たちや親御さんに挨拶したりしている。大抵笑顔で返して下さり、双方微笑ましい雰囲気となっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営母体のクリニックをご利用者全員が主治医とされているが、ご本人とご家族の希望で、専門分野では他の病院を受診されている方もいる。いずれの場合も本人様とご家族の要望に沿った医療が受けられるよう、連携を図り支援している。</p>	<p>入居時に利用者・家族の要望を聞いてかかりつけ医を決めているが、その際に事業所の協力医についても説明している。現在、利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。協力医は月2回、往診して利用者の健康状態を把握している。今まで通院していた専門医を受診する利用者もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間いつでも連絡が取れる体制になっている。常時看護師と連携を図り、症状に合わせた適切な受診や看護を支援し、医療面での協働を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して入院生活を送っていただける様、また早期の退院に向けご本人、ご家族、医療関係者と話し合う機会をつくり、連携に努めている。また、入院中も可能な限り様子を伺いに通うなどし、病院関係者との情報交換、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期指針と称し、ご家族・主治医・関係者が話し合い、方針を共有し、書面にて事前確認させて頂いている。重度化・終末期・体調の著しい変化が生じた場合は、その都度、主治医・看護師・ご家族と話し合いを行い、今後の方針をともに立てている。	入居時に「重度化した場合における対応に係わる指針」を説明し、家族が高度な延命治療を希望すれば、他機関を紹介することも伝えている。重度化した際には、医師の判断を家族に伝え、今後の方針について家族と話し合う。その後、家族の同意を得てターミナルケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応一覧に基づき、対応するようにしている。何かあれば緊急連絡網を活用し、24時間医療職、管理者に報連相する連絡体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホーム内での災害時避難訓練は年に2回消防署の方を招き、防災・災害時の対策について、消防署員からの指導も受けている。	年2回、「消防総合訓練」を行い、夜間を想定した訓練・地震が発生した際に生じる火災対応についても訓練を行っている。なお消防署関係者は必要に応じて運営推進会議に参加し、助言、指導を得ている。	今までの訓練には利用者の参加はない。今後は、利用者が実際に参加して、避難経路・避難に要する時間などを勘案して事業所の避難時対応を構築することを期待します。なお、地域住民への協力依頼や食料の備蓄も検討して頂きたい。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。人生の大先輩として敬うことをケア場面で徹底実践している。ご利用者に対して指示的な言動にならないよう、職員同士も互いに注意し合っている。	尊厳についての法人研修を行い、「人生の先輩として敬うよう」周知・徹底している。車イスを利用すると扉が完全に閉まり難いトイレには、トイレの前にカーテンを設置して、利用者が見えないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気作りを行い、コミュニケーションを図っている。その人らしい生活を支えるための知識・技術を学び、人的・物的両面から自己決定ができるよう工夫を重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りその方の生活リズムやペースに添えるよう支援している。本人の思いをくみ取り、寄り添いのケアに力を入れている。訴えや要望がある場合は、その都度対応し、なるべくその方のペースが守れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	食べこぼしや口周りの汚れ等配慮し、気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。いつでもご家族や友人に会ったり、外出できるように気を配っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下準備や盛り付け、配膳・下膳、食器洗いを入居者様に手伝って頂いている。職員も同じものを一緒に食べ、楽しい食卓の雰囲気作りをしている。また食事の時の座位やテーブルとの距離が適切になるよう細やかに支援している。	配食サービスを利用しているが、おかずを一品追加する際には、利用者と一緒に材料の下準備をし、月に1回程度、「おやつ作り」で、ホットケーキ・プリンアラモードを一緒に作っている。「土用丑の日」にはウナギ、クリスマスには握り寿司、花見には弁当を用意し食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医療職との連携を図り、連絡、相談を行っている。食が進まない入居者様にはご本人様の食べたい物・飲みたい物を見つけ、提供している。水分摂取の重要性について、全職員が理解し、適切な量を摂取できるよう取り組んでいる。栄養補助食品も導入し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科と連携を図り、口腔衛生に努めている。毎食後、入居者様の状態に合わせて口腔ケアの声かけ・介助を行っている。夜間は義歯をお預かりして義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンや習慣を把握し、基本的におむつを使用しない。排泄パターンに合わせ時間で誘導するなど、排泄の失敗がないように努めている。必要がなければ紙パンツもできるだけ使用せず、布パンツでの対応をしている。自立支援と並行し、気持ちのよい排泄を目指している。	オムツを出来るだけ使用しないようにし、日中は、利用者の約1/3が布パンツを着用し、それ以外はリハビリパンツとパットを併用している。排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っているが、強制せず利用者の様子を観察しながら誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療職と連携をはかり、便秘予防、対応、対策を行なっている。食後のトイレ誘導や水分摂取への気配り他、適度な運動を取り入れて対策している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、希望に添った入浴方法・習慣を大切に支援に努めている。時間帯は問わず、ご本人に合わせた入浴のお誘いや、同性の職員で入浴介助を行うなど個々に合わせて支援を行っている。	週2回、入浴するようにしているが、入浴したことを忘れる利用者には丁寧に説明して納得してもらっている。また、入浴を拒否する利用者には担当者を変えて説得することもある。なお同性介助希望者にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居前の生活スタイルを崩さな いよう、起床時間をご本人様の 要望に合わせて、リクライニン グチェアの活用や、居室で休ん でいただけよう支援している。夜 間しっかりと休んでいただくた め、居室の環境整備に努めてい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	職員は内服薬リストなどを活用 して状況をほぼ把握している。職 員間での連携を密にとり、症状 の変化を見逃さないようにして いる。服薬管理には意識の徹底 を図り、慎重な対応をしている。 医療との連携は密に行われてい る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	習字、歌を歌うこと、刺し子、 散歩など、入居以前にされてい た趣味や得意だったことをご本 人やご家族からお聞きし、入居 後も継続してできるよう支援し ている。ご自宅への一時帰宅な どご本人が希望されれば希望に 添えるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かけら れるように支援している。	個別支援として、誕生日のお祝 いやドライブ、ショッピングなど 、個別性の強い外出支援に取り 組んでいる。日常では天気の日 は散歩に行く、屋外で日光浴を しながらお茶を飲むなど、外の 空気に触れるよう支援している。	玄関は日中、施錠されていない ので、利用者は自由に入出入り 出来、玄関前でひなたぼっこし たりプランターに水やりをする 利用者がある。誕生日にはデ パートでの買い物・喫茶店での 休憩を企画したり、利用者の「 ハッピーライフ」として、近所 への買い物、近所のカフェに行 く、花火見物などを企画してい る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金 を所持したり使えるように支 援している。	希望や能力に応じて、ご家族の 了承の上、ご本人に管理してい て頂いている。必要に応じて買 い物ができるように、ご家族に も協力を仰いでいる。ただし、 紛失の可能性もあるため、ご本 人が紛失されたとしても差支え ない程度の金額としておくこと もあわせて提案している。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に沿って、電話をかけて頂いたり、取次ぎを行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の作品や、季節の置物などを飾り季節感をだしている。リビングから見える庭に花壇を作り、四季の変化を感じて頂いている。馴染みの空間作りができるよう、ご利用者が使う物や家具の配置はできるだけ変えないようにしている。	刺し子・塗り絵などの利用者の作品を掲示したり、利用者の写真を掲示している。利用者の身長に応じてテーブル・イスの高さが選択できる。階段やリビングなどの掃除は、担当を決め定期的実施し、清潔にするように心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人一人のお気に入りの場所があり、気の合う方と楽しく過ごせるよう家具の配置など工夫している。一人になりたいときは少し離れたソファで過ごす等にも配慮している。一人で居室で休む時間、リビングで皆と過ごす時間をご本人の希望に合わせて支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や持ち物は、ご本人様の使いなれた馴染みの物をお持ちいただくようお願いし、なるべく以前のお住いに近い形で、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。ご家族の写真や思い出の品も自由に持って来て頂き、自由に居室をレイアウトして頂いている。	今まで利用していた使い慣れたタンスなどの家具を居室に持ち込み、安心して生活できるようにしている。靴箱に利用する靴を並べたり、化粧道具を持って来たりと、快適に過ごせるようにそれぞれ工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの得意な事を活かして、計算問題や刺し子など、ご本人の意思で行って頂いている。ご利用者が使うものは配置を固定し、いつでも使用して頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	基本理念及び好縁会生活作り10カ条を主軸に、全職員共有し、実践につないでいる。朝礼時は全員で復唱し、一日の目標を立て、サービスを提供している。また、OJTマニュアルを作成し、活用している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し寄り合い、婦人部の清掃等参加している。地域の行事などに参加し、地域の方々との接点を持つよう心がけている。挨拶への気配りにも注意している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	玄関先で施設に興味を示している町内の方には、こちらから声をかけさせて頂き、話を伺っている。地域貢献できる機会を逃さないよう、住民の声を真摯に受け止めて反映させていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、事業所の状況やサービスの実績を伝えている。又、利用者様の日常の様子を写真を見ていただき、参加者との話し合いの機会を設けている。ご意見やご要望は早急に対処・改善に努め、サービスの向上に心がけている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センターの方に参加して頂き、情報交換を行っている。又、段原地域連絡会へも参加させて頂き、関係機関との連携を深めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議時に、身体拘束禁止委員会を開催している。現時点で身体拘束の事実はないが、今後も行われぬよう意識の徹底と周知を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止・虐待防止を含めての事故防止委員会を設置し、定期的に会議を行い、内容は回覧し全職員で周知徹底し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度を利用されている入居者様がおられ、随時連絡をとっている。又、後見人様には定期的に御面会を頂けるようお伝えし、アドバイスやご要望に対処している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書に基づいて、入居者様、家族に説明している。変更が生じた場合も、その都度説明している。また、不安や疑問点について伺い、ご理解が頂けるよう説明をしている。迅速に誠意を持って対応できるよう心がけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者様に担当をつけ、要望や意見を表せるよう、個別にゆっくりとコミュニケーションをとり、担当以外の職員とも話し合いを重ね、意見や要望を見落とさないようにしている。ご家族の面会時には積極的に声かけを行い、得た情報は記録に残す等し職員間での共有を図っている。また、話しやすい雰囲気作りに努め、意見交換を行い、運営に反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度各フロアでミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、議事録を回覧し、全職員で共有している。また、参加できない職員については、疑問点や意見をあらかじめ提出してもらい、ミーティングで話し合う仕組みにしている。ミーティング以外でも気づいた事があれば、話し合い、対策・改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員が年度目標(チャレンジシート)を作成し、目標達成に取り組んでいる。又、評価表を用いて、各職員の努力や実績を評価している。必要に応じて管理者は個人面談を行い、進捗状況に合わせた課題を出し、関係各所へ報連相を行い、意欲の向上へと努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に研修委員会があり、内部研修が頻繁に行われている。外部研修に関しても、研修費補助や勤務内研修が認められ、比較的参加しやすい体制が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修にて他事業所の方と意見交換する機会がもてた。当法人のホームの紹介を兼ね、関係事業所への訪問は行なっている。又、同業者からの見学・問い合わせも受けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に管理者、計画作成担当者、必要に応じて看護師が訪問し、関係作りを開始している。可能な限りご本人様の不安や思いを伺い、少しでも不安を取り除けるよう努めている。担当職員を中心に全職員で関係作りに取り組み、安心感の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安やご要望など十分に話を伺い、誠意を持って受け止め、安心してサービスを受けていただけるよう努めている。ホームでの様子を撮影した写真に手紙を添え、毎月送らせて頂き信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメント表を活用し、まず必要とされるサービスの見極めを行い、本人・ご家族との合意の上、支援へとつないでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な限り共に過ごし、主体性のあるその人らしい時間を大切に頂けるよう努めている。より深い共にある馴染みの関係を目指し、安全・安心の生活ができるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の体調や様子を細かくお伝えし、ご家族の不安や心配ごとを伺い、ケアの方向性を一緒に考え支援している。ご家族様との関係を再構築する為にもご家族様との外出(外食も含む)や、リビングやお部屋で一緒にお食事ができるなどの支援を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が来所された時には、話しやすい雰囲気を作ったり、会話の橋渡しをしている。又、馴染みのご友人との習慣も入居後も継続して行って頂いたり、通い続けていた病院へも定期的に通ったり途切れないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席は利用者様同士の相性や話しやすさを考えて配置し、食事以外の時間にも孤立を防ぐため、家具の配置などリビングの環境に配慮している。又、より良い人間関係作りのため、職員がコミュニケーションの間に入り意思疎通の手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されたご利用者のご家族様が施設に来訪されたり、お手紙を頂いたりサービスが終了してもこれまでの関係性を保てる環境を作っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当者が中心となって、本人の思いを聞き出せるよう努めている。ご本人が話された内容は記録に残し、全職員が共有できるようにしている。本人のこれまでの生活習慣に近づけるよう、情報収集を行い、馴染みの場所や趣味の場所に足を運べるよう個別外出支援も行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報提供を基に、基本情報やアセスメントシートを作成・活用し、ほぼ把握できている。縁者の方々等からも、より詳しくうかがったり、生活場面や本人とのコミュニケーションの中からの把握にも努めている。本人の人生史も重視し、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活状況記録を主として毎日の様子を記録し、全職員が把握し、心身の状況の変化があれば、明確に分かるよう連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントを行い、ご本人やご家族と話し合いの上、課題抽出をし、目標を見据えたケアプランを立てている。毎月モニタリングを行い、見直しをしている。ご家族とは来所に現状や取り組み内容などを伝え、ご意見等を聞きケアの参考にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活記録と個別記録を主な記録とし、心身状態の変化・プラン実施状況・生活状況・会話等を詳しく記録に残している。職員は記録を共有し、ケアプラン作成やモニタリングに反映させ活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存サービス外と思われるニーズに対しても可能な限り対応している。個別外出支援をはじめ、入院時の対応など突発的な出来事が発生した場合も柔軟なサービスを展開している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所の公園などへ散歩に行き、そこで遊んでいる子供たちやた親御さんに挨拶したりしている。大抵笑顔で返して下さり、双方ほほえましい雰囲気となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	運営母体のクリニックをご利用者全員が主治医とされているが、ご本人とご家族の希望で、専門分野では他の病院を受診されている方もいる。いずれの場合も本人様とご家族の要望に沿った医療が受けられるよう、連携を図り支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間いつでも連絡が取れる体制になっている。常時看護師と連携を図り、症状に合わせた適切な受診や看護を支援し、医療面での協働を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して入院生活を送っていただける様、また早期の退院に向けご本人、ご家族、医療関係者と話しあう機会をつくり連携に努めている。また、入院中も可能な限り様子を伺いに通うなどし、病院関係者との情報交換、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期指針と称し、ご家族・主治医・関係者が話し合い、方針を共有し、書面にて事前確認させて頂いている。重度化・終末期・体調の著しい変化が生じた場合は、その都度、主治医・看護師・ご家族と話し合いを行い、今後の方針をともに立てている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応一覧に基づき対応するようにしている。何かあれば緊急連絡網を活用し、24時間医療職、管理者に報連相する連絡体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホーム内での災害時避難訓練は年に2回消防署の方を招き、防災・災害時の対策について、消防署員からの指導も受けている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。人生の大先輩として敬うことをケア場面にて徹底実践している。ご利用者に対して指示的な言動にならないよう、職員同士も互いに注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気作りを行い、コミュニケーションを図っている。その人らしい生活を支えるための知識・技術を学び、人的・物的両面から自己決定ができるよう工夫を重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りその方の生活リズムやペースに添えるよう支援している。本人の思いをくみ取り、寄り添いのケアに力を入れている。訴えや要望がある場合は、その都度対応し、なるべくその方のペースが守れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	食べこぼしや口周りの汚れ等配慮し、気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。いつでもご家族や友人に会ったり、外出できるように気を配っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下準備や盛り付け、配膳・下膳、食器洗いを入居者様に手伝って頂いている。職員も同じものを一緒に食べ、楽しい食卓の雰囲気作りをしている。また食事の時の座位やテーブルとの距離が適切になるよう細やかに支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>医療職との連携を図り、連絡、相談を行っている。食が進まない入居者様にはご本人様の食べたい物・飲みたい物を見つけ、提供している。水分摂取の重要性について、全職員が理解し、適切な量を摂取できるよう取り組んでいる。栄養補助食品も導入し提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>訪問歯科と連携を図り、口腔衛生に努めている。毎食後、入居者様の状態に合わせて口腔ケアの声かけ・介助を行っている。夜間は義歯をお預かりして義歯洗浄を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンや習慣を把握し、基本的におむつを使用しない。排泄パターンに合わせて時間で誘導するなど排泄の失敗がないように努めている。必要がなければ紙パンツもできるだけ使用せず、布パンツでの対応をしている。自立支援と並行し、気持ちのよい排泄を目指している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>医療職と連携をはかり、便秘予防、対応、対策を行なっている。食後のトイレ誘導や水分摂取への気配り他、適度な運動を取り入れて対策している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>可能な限り、希望に添った入浴方法・習慣を大切に支援に努めている。時間帯は問わず、ご本人に合わせた入浴のお誘いや、同性の職員で入浴介助を行うなど個々に合わせて支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>入居前の生活スタイルを崩さな いよう、起床時間をご本人様の 要望に合わせて、リクライニン グチェアの活用や、居室で休ん でいただけよう支援している。夜 間しっかりと休んでいただくた め、居室の環境整備に努めてい る。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>職員は内服薬リストなどを活用 して状況をほぼ把握している。 職員間での連携を密にとり、 症状の変化を見逃さないよう にしている。服薬管理には意識 の徹底を図り、慎重な対応をし ている。医療との連携は密に行 われている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。</p>	<p>習字、歌を歌うこと、塗り絵、 散歩など、入居以前にされてい た趣味や得意だったことをご本 人やご家族からお聞きし、入居 後も継続してできるよう支援し ている。ご自宅への一時帰宅な どご本人が希望されれば希望に 添えるよう努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	<p>個別支援として、誕生日のお 祝いやドライブ、ショッピング など、個性の強い外出支援に 取り組んでいる。日常では天気 の日は散歩に行く、屋外で日光 浴をしながらお茶を飲むなど 外の空気に触れるよう支援し ている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金の所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>希望や能力に応じて、ご家族 の了承の上、ご本人に管理して 頂いている。必要に応じて買い 物ができるように、ご家族にも 協力を仰いでいる。ただし、紛 失の可能性もあるため、ご本人 が紛失されたとしても差支えな い程度の金額としておくことも あわせて提案している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に沿って、電話をかけて頂いたり、取次ぎを行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の作品や、季節の置物などを飾り季節感をだしている。リビングから見える庭に花壇を作り、四季の変化を感じて頂いている。馴染みの空間作りができるよう、ご利用者が使う物や家具の配置はできるだけ変えないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人一人のお気に入りの場所があり、気の合う方と楽しく過ごせるよう家具の配置など工夫している。一人になりたいときは少し離れたソファで過ごす等にも配慮している。一人で居室で休む時間、リビングで皆と過ごす時間をご本人の希望に合わせて支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や持ち物をご本人様の使いたれた馴染みの物をお持ちいただくようお願いし、なるべく以前のお住いに近い形で、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。ご家族の写真や思い出の品も自由に持って来て頂き、自由に居室をレイアウトして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの得意な事を活かして、計算問題や塗り絵などご本人の意思で行って頂いている。ご利用者が使うものは配置を固定し、いつでも使用して頂けるようにしている。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい段原山崎

作成日 平成30年9月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族会が開催できておらず、事業所の運営状況の報告もできていない。	事業所の運営状況をご家族に報告する。	①ご家族に、運営推進会議に合わせて2か月に1回発行しているふれあい新聞の送付を行う。 ②ご家族に、2か月に1回開催している運営推進会議の議事録の送付を行う。	①②ともに次回の運営推進会議は平成30年9月25日であるため、1か月後に実地予定。
2	35	これまで消防総合訓練に利用者の参加があったりなかったりした。	全員参加は難しいが、2～3名の利用者の参加は毎回必ず行うとともに、夜間想定も踏まえ、地域の方と協力する。	①利用者参加の消防訓練計画書を作成し、消防署に提出する。 ②緊急時に地域の方に協力してもらえよう、運営推進会議を活用し相談する。	①については平成30年8月21日に実施済みである。次回は6か月後に再度実地予定である。 ②次回の運営推進会議は平成30年9月25日であるため、1か月後に実地予定。
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。